オーディオ実験室収載

ヴィヴァルディ盤を聴く(7)(HP 収載)
－最新アナログシステムでの試聴(7)－

１．始めに

LINN LP-12 の再構成(35)および ThorensTD124 の再構成(1)で報告しましたようにこれらのアナログシステムの大幅な変更を行い、バッハ、テレマン、ヘンデルのアナログ盤を聴き直してきました。今回もヴィヴァルディ盤を聴いてみることにしました。

２．ヴィヴァルディのアナログ盤の試聴方法

試聴システムは、LINN LP-12 の再構成(35)および ThorensTD124 の再構成(1)で報告したとおりであり、ヴィヴァルディのアナログ盤をレーベル毎、録音年代毎に整理して、LINN LP-12 と ThorensTD124 のいずれか、または両方で聴いていきます。その後、さらにアンチスタティックの効果(1)とアンチスタティックの効果(2)で報告したようにレコードアンチスタティックも加わり、今回も、スピーカーアキュライザーの出力側のマイナス端子に Crstal EpY-G をセットしています。また、今回も Magic Mat Ⅱの導入(2)で報告した Magic Mat Ⅱを使用しています。

今回は、次のヴィヴァルディ盤を聴いていきます。これらは、イムジチによるヴィヴァルディ全集で、すでに音源の比較試聴(24)でも聴いています。

PHILIPS　6599-125

アントニオ・ヴィヴァルディ　調和の幻想 No1・No.2・No.3・No.4

イムジチ

PHILIPS　6599-126

アントニオ・ヴィヴァルディ　調和の幻想 No5・No.6・No.7・No.8

イムジチ

PHILIPS　6599-127

アントニオ・ヴィヴァルディ　調和の幻想 No9・No.10・No.11・No.12

イムジチ

３．ヴィヴァルディのアナログ盤の試聴結果

上記はすでに音源の比較試聴(24)で聴いていますが、その結果ではオランダ盤ということで TELDEC、R、第 4 時定数 Mid でしたので、その再確認ということになります。

これまでは、国内盤の全集物という先入観で RIAA の正相で聴いていましたが、音源の比較試聴(24)でオランダ盤と言うことが分り、上記の条件に替えたところ、国内盤

とは随分音質に違いがあり、PHILIPS のイムジチと言えば、明るいウォームトーンというイメージでしたが、どの曲を聴いても解像度が良く音の精度が違ってきています。
結果として上記すべてにおいて音源の比較試聴(24)の結果の確認と言うことになりました。試みに一部について RIAA の正相で聴いてみたところ、過度の広がり感があって音の焦点が定まらず、弦の艶が後退します。
12 曲すべて通しで聴いてみましたが、曲毎の表情の違いがよく分かりました。
このようなことは、以前と違って、フォノケーブルのバランス化、仮想アースとアースアキュライザー、スピーカーアキュライザーのマイナス端子への Crystal Ep-G の接続、レコードアンチスタティック、Magic MatⅡなどの種々の対策をとってきましたので、このような判別がより容易になってきたものと思われます。

４．まとめ

LINN LP-12 の再構成(35)とアンチスタティックの効果(1)とレコードアンチスタティックやスピーカーアキュライザーの Crstal EpY-G や Magic MatⅡの結果をトレースでき、これらのレーベルのイコライザー特性が音源の比較試聴(24)の結果の再確認がとれました。

以上